2025 年度　研究所活動報告

研究会

「三綱領とアントレプレナーシップ教育」

2026 年 2 月 19 日、経営学を専門とする額田春華先生をお招きして、本学の教育の核となる「三綱領」と、昨今教育の現場で注目されている「アントレプレナーシップ」の親和性について解説していただく研究会を開催いたしました。本学の卒業生に経営者が多いことは、本学の教育理念からの影響があるのではという考えのもと、アントレプレナーシップとの関連を検討しました。主に日本女子大学附属中学校・高等学校の先生方にご参加いただき、中高での教育現場を振り返り、一貫教育における今後の可能性について活発な意見交換と議論が行われました。

研究会

「日本における専門職カップルの二体問題　～系列分析を踏まえて～」

2026 年 3 月 24 日、日本女子大学の研究員である、こども家庭庁の百瀬由璃絵先生、福岡県立大学の黒川すみれ先生をお招きし、オンラインでの研究会を開催いたしました。「二体問題（Two-body problem）」は、家族形成とキャリア両立を行う上でジレンマが生じることを指します。本研究会では、日本における二体問題の現状を実証的に明らかにするために、それぞれの職業生活を重視する可能性が高い専門職同士カップルに注目し、東京大学社会科学研究所「働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査」の 2007 ～ 2023 年（Wave1 ～ 17）データを用いて系列分析を行い、夫婦のキャリアパターンの分析を通じて専門職カップルの二体問題について明らかにするべく議論が行われました。今後の政策や支援において二体問題に対する視点を持つことの重要性について等が指摘され、様々な意見交換が行われました。

韓・日　国際フォーラム

「少子化対応のための家族親和（家族にやさしい）政策」

2025 年 10 月 1 日、ソウル市女性家族財団国際会議場でソウル市女性家族財団主催の韓・日国際フォーラムが開催され、永井暁子所長が登壇しました。李明善理事長の開会の辞をいただいた後、「少子化対応のための家族親和（家族にやさしい）政策」と題して、少子化現状診断、韓国と日本の家族親和政策事例共有、持続可能な少子化対応戦略模索が行われました。

日本側パネリストは、小倉將信（元少子化担当大臣）、山崎史郎（内閣官房参与）、小林文彦（伊藤忠商事株式会社副社長兼 CAO）、小室淑恵（株式会社ワーク・ライフバランス創立者兼代表）、金明中（ニッセイ基礎研究所上席研究員兼亜細亜大学特任准教授）、永井暁子（日本女子大学人間社会学部社会福祉学科教授）

国際女性デー記念講演
「逆境という実践　ー国際的に生きることの意味ー」

3 月 8 日の「国際女性デー」に際し、日本女子大学では毎年、女性をエンカレッジする企画を実施しています。今年度は、本学卒業生で現在はシドニー大学で言語学を研究されており弊研究所特任研究員でもある米澤陽子先生をお迎えし、国際女性デー記念講演『逆境という実践－国際的に生きることの意味－』をキャリア支援課と現代女性キャリア研究所の共催で開催しました。グローバルな働き方に興味がある方、文学部に関心がある方、日本語教員を目指したい方等を対象としており、参加者それぞれが、自身のキャリアを改めて考えるきっかけになる講演会となりました。（3 月 7 日実施）

ワークショップ、
「社会調査に役立つ統計分析：SPSS ワークショップ」

現代女性キャリア研究所では、2012 年から学内の学生・教職員を対象として、『社会調査に役立つ統計分析：SPSS ワークショップ』を開催しています。今年度の講義では、SPSS の基本操作からデータの加工などの基礎知識を扱う基礎編と統計分析の理解からクロス集計、回帰分析などを扱う応用編が計 3 日にわたり実施され、実践的な学習が行われました。様々な学部・専攻より幅広い方々にご参加いただき、本年度も大変好評なワークショップとなりました。（講師：金明中先生（ニッセイ基礎研究所上席研究員） 3 月 3、5、6 日実施）

ワークショップ
「キャリア・スタートアップ・セミナー」

2026 年 3 月 17 日、清泉女子大学の安斎徹教授をお迎えして、『キャリア・スタートアップ・セミナー　～アニメ作品から考える「働くって何？」から「大学生活の過ごし方」まで～』を日本女子大学の学生向けに開催いたしました。身近なアニメ映画や参加型のワークショップを通じて、働くことの意味、大学での学習の意義から生涯を通しての学ぶことの意義を再確認し、これからのキャリア（生き方・働き方）を考えるきっかけを提供しました。今後のキャリア形成に向けて自ら考える良い機会となりました。ワークショップでは、初対面の学生たちが活気あるディスカッションを遂行する様子もみられました。アンケートでは「自分自身の課題や、やりたいことと向き合うことができた。」「働くことだけでなく、大学生活から見つめ直す良い機会になった。」「社会でどのように生きていくのか、大学生活の中で出来ることは何かを、改めて考えることができた。」「見方を変えることで、自分のやってきたこと、これからやるべきことが少し見えた。」など参加者の満足度の高さが示されました。

オープンキャンパス
「研究所の展示紹介」

2025 年 6 月 15 日、8 月 2 日、8 月 3 日のオープンキャンパスに現代女性キャリア研究所のブースを開設し、研究所の活動をパネルや動画などを通してご覧いただきました。オープンキャンパスへの出展は、多くの方々に研究所を知っていただく機会となりました。

2025 年度　彙報

◆研究事業

・独自研究事業の進展

（1）　2025 年 8 月 7 日　株式会社キャリアボット代表取締役社長であり、株式会社岡崎人事コンサルタント代表取締役社長でもある岡崎浩二氏に、キャリアコンサルタントについてインタビューを行い、幅広い見地を得た。

（2）「女子大卒業生の生活・意見調査」のデータ整備を行った。

（3）「女性とキャリア」に関わる調査報告書の収集を進め、書誌データベースの拡充を行った。

・2025 年度における傘下研究事業は以下のものである。

（1）　民主主義的ケアの可能性：人的資本化される女性政策への対抗軸の構想（伊吹美貴子）

（2）　生活保護制度にみる貧困の概念・定義・測定基準（岩永　理恵）

（3）　離婚家庭の子の「自分も離婚するのでは？」という不安感の解明と心理支援モデルの構築（小川　洋子）

（4）　カモフラージュ／女性／美術をめぐる研究：ジェンダーの観点からの再検討（河本　真理）

（5）　児童福祉政策における養育観と社会的養育支援体制の現状と課題（林　浩康）

（6）　WHO グローバル社会政策の自治体における受容と実施プロセスに関する国際比較（増田　幸弘）

（7）　物語絵画にみる女性表象の包括的研究―作品享受の主体としての女性像とジェンダー（水野　僚子）

（8）　移民的背景をもつ子ども・若者の社会統合プロセスにおけるソーシャルワークアプローチ（森　恭子）

（9）　エビデンスに基づく教育政策の評価に関する実証的研究（山下　絢）

（10）　家族・家計経済研究センター（永井　暁子）

◆教育支援

・平塚らいてう賞の選定支援：平塚らいてう賞の事務局業務として応募書類などの確認及び選考委員会の開催などを担当した。

・資料室における図書・雑誌資料等の閲覧提供を行った。

◆情報の発信・ネットワークの構築

・研究事業の一環として、以下のシンポジウム、研究会、ワークショップなどを開催した。さらに学外の研究者や研究機関との交流を行った。

（1） シンポジウム

「女性の「働く」を考える－生活基盤としての仕事を支えるために－」

2025 年 12 月 20 日（土）13:00 ～ 15:35　新泉山館　オンライン併用

【講演】

「女性の老後生活は誰が保障するのか」　中尾　友紀（社会福祉学科教授）

「母親の就業と保育サービス」　中山　真緒（家政経済学科講師）

「公的職業訓練とシングルマザーの所得変化」　周　燕飛（現代社会学科教授）

【全体討論】

（2） 研究会

①「三綱領とアントレプレナーシップ教育」

講師：額田　春華（日本女子大学教授）

2026 年 2 月 19 日（木）15:50 ～ 16:50　日本女子大学附属中学校・高等学校　西生田成瀬講堂　南ホール

②「日本における専門職カップルの二体問題（Two-body problem）－系列分析を踏まえて－」

講師：百瀬　由璃絵（こども家庭庁長官官房参事官付参事官補佐　日本女子大学学術研究員）黒川　すみれ（福岡県立大学人間社会学部講師）

2026 年 3 月 24 日（火）11:00 ～ 12:30　オンライン

（3） ワークショップ

① SPSS ワークショップ

講師：金　明中（ニッセイ基礎研究所上席研究員）

2026 年 3 月 3 日（火）、3 月 5 日（木）～ 6 日（金）13:00 ～ 17:00　百年館低層棟 7 階コンピューター演習室 9

②キャリア・スタートアップ・セミナー（共催：キャリア支援課）

講師：安齋　徹（清泉女子大学教授）

2026 年 3 月 17 日（火）10:00 ～ 16:50　百年館 201 号室

（4） オープンキャンパス展示

オープンキャンパスに RIWAC のブースを開設

2025 年 6 月 15 日（日）10:00 ～ 15:00　百二十年館 12104 教室

2025 年 8 月 2 日（土）、3 日（日）10:00 ～ 15:00　百二十年館 12002 教室

（5） 共催イベント

国際女性デー記念講演会「越境という実践―国際的に生きることの意味―」

講師：米澤　陽子（シドニー大学講師）

2026 年 3 月 7 日（土）13:30 ～ 14:30　オンライン

◆研究所発行物

・日本女子大学現代女性キャリア研究所 機関誌『現代女性とキャリア』第 17 号

・日本女子大学現代女性キャリア研究所ニューズレター vol.17

『現代女性とキャリア』編集規定

（2023.8.7 委員会決定）

1．本誌は日本女子大学現代女性キャリア研究所の機関誌であって、原則として年１回発行とする。
2．本誌の編集は編集委員会ならびに編集委員会事務局によって行う。
3．本誌は原則として、女性とキャリアに関する研究発表の場とする。この場合のキャリアとは職業経歴だけでなく、社会の中での女性の「生き方」としてとらえることとする。本誌では、投稿原稿（論文および研究ノート）、編集委員会による依頼原稿（特集、書評、文献紹介、寄稿論文、その他）等を掲載するものとする。
4．原稿の作成は、別途定める執筆要項に従うものとする。また投稿は、別途定める投稿規程にもとづいて行うものとする。
5．投稿原稿の採否は、所定の査読手順に従い、編集委員会において決定する。
6．編集委員会は、依頼原稿の執筆者を決定して依頼を行い、執筆された原稿の掲載可否を決定する。
7．書評および文献紹介の対象となりうる図書は、編集委員会が女性とキャリアに関する研究に対して有意義と認めるものとする。
8．編集委員会は、掲載予定の原稿について、本誌編集方針に則って、漢字・平仮名表記の別など、多少の原稿整理をすることができる。
9．論文の掲載順序は編集委員会が決定する。
10．本誌に掲載された論文の著作権はすべて本研究所に帰属し、本研究所ホームページ及び国立情報学研究所（CiNii）、日本女子大学学術情報リポジトリ上で電子化・公開される。
11．本誌を無断で複製あるいは転載することを禁ずる。

『現代女性とキャリア』投稿規定

（2011.10.25 委員会決定）
（2017.6.30 改訂）
（2023.8.7 改訂）

1．投稿は女性とキャリアに関する研究論文及び研究ノートとする。この場合のキャリアとは職業経歴だけでなく、社会の中での女性の「生き方」としてとらえることとする。研究ノートは、論文に準ずるもので、研究上の問題提起、研究プロジェクトの経過報告、他の著書・論文への批判・反論、外国書の紹介・批判などをテーマとする。
2．投稿資格は問わない。
3．同一号に複数の論文等（共著を含む）を投稿することはできない。
4．投稿原稿は投稿規定を満たした未発表のものに限る。ただし、学会等で口頭発表したものについては、その限りではない。また、他誌との二重投稿は認めない。
5．投稿にあたっては、別途定める「執筆要項」に従って原稿を作成し、体裁を整え、編集委員会事務局（riwac-ed ☆ fc.jwu.ac.jp ☆→@）にメール添付により２月末日までに

送付する。期日までに送付されなかった原稿、執筆要項に定められた字数等の制限を超えた原稿は一切受理しない。編集委員会事務局は原稿受付後、1 週間以内に受付した旨を連絡するので、連絡が来ない場合は、投稿者は自身の責任において編集委員会事務局に確認する。

6．投稿の際には、必要事項を記入した「投稿申込書」を必ず添付する。

＜投稿申込書記載項目＞

① 氏名（ふりがな）、ローマ字表記、② 住所・電話番号、③ 所属・職名、④ 論文のタイトル、⑤ 投稿の種別（論文／研究ノート）、⑥ 電子メールアドレス

7．掲載を認められた投稿者は、指示にしたがって修正したうえ、完成原稿をメールに添付し、指定した期日までに提出する。完成原稿には、執筆者名、所属などを記載する。

8．投稿論文の査読は、著者名等を匿名にして行っている。文献等の表記の際には、匿名にすべき箇所が最小限ですむよう、本人の著であっても、「筆者」「拙著」等とせず、著者名で表記する。

9．本規程の変更は、編集委員会の議を経ることを要する。

『現代女性とキャリア』執筆要項

（2011.10.25 委員会決定）
（2017.6.30 改訂）
（2023.8.7 改訂）

1．執筆の形式

（1）原稿は、A4 判縦置き・横書き、40 字× 40 行で作成し、フォントは 10.5MS 明朝（章・節・項はゴシック）、MS Word 形式および PDF 形式のファイル両方をメール添付にて提出する。（縦書きを希望する場合は要相談）。

（2）論文及び研究ノートは、1）タイトル、2）英文タイトル、3）氏名、下にローマ字表記、4）英文要旨（200 語程度）、5）英語キーワード 3 つ（日本語訳付）、6）本文、図表等、7）文末注、8）文献、9）所属、の順に構成し、総ページ数を論文は 12 ページ以内、研究ノートは 10 ページ以内とする。

2．本文

（1）本文中の見出しは以下の順でランクを統一する。

1．
（1）
1）
} 数字：全角

（2）年号は西暦表記を基本とする。
ただし、必要に応じて「昭和 50 年代」などの和暦表記を用いる。

（3）アラビア数字やアルファベットは半角にする。

（4）（）「」『』等のかっこは全角にする。

（5）句点と句読点は「、」「。」を用いることとする（英文要旨には「, 」「. 」を用いる）。

3．図表等

（1）図・表等を挿入する場合、原稿の該当箇所に挿入もしくは添付する。

（2）他の著作物からの引用は、出典を明記し、必要に応じて著作権保持者から許可を得る。

（3）図・表は、それぞれに通し番号をつけ、タイトルをつける。

例　図1、表1

　　図－1、表－1

4．注記、文献

（1）注記は該当箇所の右肩に通し番号を付し、注は本文末尾に一括する。

（2）引用・文献は、原則として次の方式によって記載する。

① 文献を一括してアルファベット順に並べたリストを作成し、末尾に付す。

② 文献注は、原則として文献リストへの参照指示という形で記す。すなわち、本文や注の該当箇所に、（著者名（姓）西暦発行年「：」ページ）を記して、文献リストの該当文献の参照を指示する形式をとる。

③ 文献記載および配列の方法（形式）は指定しないが、論文の中で統一する。

例・書籍：著者名，出版年，『タイトル－サブタイトル』出版社名．

・雑誌論文：著者名，出版年，「論文名」『掲載誌名』巻（号），掲載ページ．

・編書論文：論文著者名，出版年，「論文名」編者名『編書タイトル－サブタイトル』出版社名，掲載ページ．

・翻訳書：著者ファミリーネーム，ファーストネーム他，出版年，タイトル：サブタイトル，出版社名．（＝出版年，訳者名『訳書タイトル－サブタイトル』出版社名）

・欧文書籍：著者ファミリーネーム，ファーストネーム他，出版年，タイトル：サブタイトル，出版社．

・欧文雑誌論文：著者ファミリーネーム，ファーストネーム他，出版年，“論文タイトル：サブタイトル”，掲載誌タイトル：サブタイトル，巻（号），掲載ページ．

④ 欧文書籍ならびに欧文雑誌論文の場合は、書名（タイトル：サブタイトル）・雑誌名（掲載誌タイトル：サブタイトル）をイタリック体にする。

⑤ 同一著者が同一年に発行した複数の文献は、発行年を 2009a、2009b のように表記して区別する。

現代女性キャリア研究所　現代女性とキャリア　第 18 号

2026 年 9 月 30 日発行

編集　日本女子大学現代女性キャリア研究所編集委員会

編集委員長　永井　暁子

東京都文京区目白台 2-8-1

日本女子大学現代女性キャリア研究所

Tel：03-5981-3380　Fax：03-5981-3381

発行　日本女子大学現代女性キャリア研究所

印刷　謄栄社

東京都千代田区神田猿楽町 2-2-12